



平成 29 年 6 月 15 日

各 位

会 社 名 J X T G ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 内田 幸雄
コード番号 5 0 2 0 東証・名証第 1 部
問合せ先 財務 I R 部 I R グループマネージャー
日暮 達也
(電話番号 03-6257-7075)

**当社子会社によるマレーシア・サラワク州沖ラヤン油ガス田の
商業生産開始について**

当社子会社のJX石油開発株式会社(社長:三宅 俊作)のプロジェクト会社であるJXマレーシア石油開発株式会社(社長:和佐田 ^{ひろのり} 演慎)は、同社がオペレーターとして 75%の権益を保有するマレーシア・サラワク州沖 SK10 鉱区のラヤン油ガス田において、5 月 28 日、ガスの商業生産を開始しましたので、お知らせいたします。

当社は、本年 5 月 12 日に発表した中期経営計画の中で、選択と集中のため、東南アジアをはじめとした当社の強みを発揮できる地域に経営資源を優先配分することとしており、今後ともマレーシアにおいて、オペレーターとして石油・天然ガス開発事業に取り組むことで、同国との長期的・良好な信頼関係を維持・拡大し、収益力の強化を図ってまいります。

なお、本件による平成 30 年 3 月期連結業績への影響は軽微です。

以 上

「添付資料」

マレーシア・サラワク州沖ラヤン油ガス田の商業生産開始について

2017年6月15日

各 位

J X 石油開発株式会社

マレーシア・サラワク州沖ラヤン油ガス田の商業生産開始について

当社（社長：三宅 俊作）のプロジェクト会社である J X マレーシア石油開発株式会社（社長：和佐田 ^{ひろのり} 演慎）は、同社がオペレーターとして 75%の権益を保有するマレーシア・サラワク州沖 SK10 鉱区のラヤン油ガス田において、5月28日、ガスの商業生産を開始しましたので、お知らせいたします。

ラヤン油ガス田は、同じ SK10 鉱区において既に生産中のヘランガス田の東方約 7 キロメートルに位置しており、生産されたガスは、ヘランガス田からのガスとともに、海底パイプラインにより、J X T G エネルギー株式会社が出資するマレーシア LNG ティガ社の液化プラント（サラワク州ビンツル）に輸送され、同社で液化後、LNG として日本国内の需要家などに販売されます。

ラヤン油ガス田における初期のガス生産量は、原油換算で日量約 12,000 バレルの見込みです。

当社は、本年 5 月 12 日に発表した中期経営計画の中で、選択と集中のため、東南アジアをはじめとした当社の強みを発揮できる地域に経営資源を優先配分することとしており、今後ともマレーシアにおいて、オペレーターとして石油・天然ガス開発事業に取り組むことで、同国との長期的・良好な信頼関係を維持・拡大し、収益力の強化を図ってまいります。

以上

添付資料

SK10 鉱区、J X マレーシア石油開発株式会社の概要

ヘランガス田、ラヤン油ガス田の位置図

SK10 鉱区、JXマレーシア石油開発株式会社の概要

1. マレーシア SK10 鉱区の概要

- (1) 鉱区取得日：1987年11月16日
- (2) 権益比率：JXマレーシア石油開発株式会社（75%）、ペトロナスチャリガリ（25%）
- (3) 主な沿革：

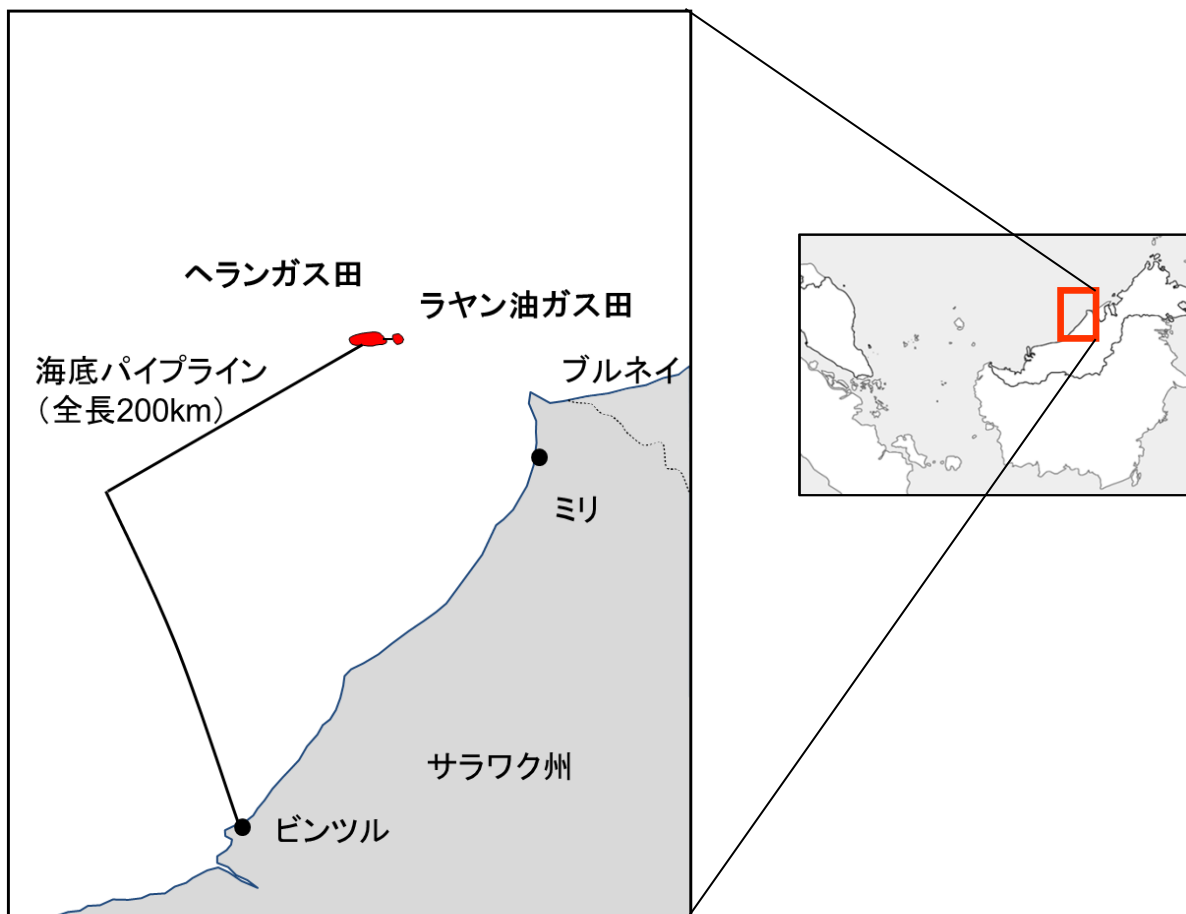
1987年11月	マレーシア国営石油会社ペトロナスとの間で生産分与契約(PSC)、ペトロナスチャリガリとの間で共同操業契約(JOA)を締結
1990年11月	ヘランガス田発見
1991年5月	ラヤン油ガス田発見
2003年11月	ヘランガス田商業生産開始
2014年3月	ラヤン油ガス田開発計画のペトロナス承認取得

2. JXマレーシア石油開発株式会社について

- ① 名称： JXマレーシア石油開発株式会社
(英文名) JX Nippon Oil & Gas Exploration (Malaysia) Limited
- ② 設立： 1987年10月14日
- ③ 所在地： (本社)東京都千代田区大手町一丁目1番2号
- ④ 代表者： 代表取締役社長 和佐田^{ひろのり} 演慎 (JX石油開発株式会社 取締役常務執行役員 第1事業本部長)
- ⑤ 資本金： 131億円(2017年5月末現在)
- ⑥ 株主： JX石油開発株式会社(78.7%)、国際石油開発帝石株式会社(15.0%)、三菱商事株式会社(6.3%)
- ⑦ 事業内容： マレーシアおよびその周辺地域における石油、天然ガスその他の鉱物資源の探鉱、開発、採取、加工、貯蔵および売買ならびに付帯する事業

以上

<ヘランガス田、ラヤン油ガス田の位置図>



以上